

原松原線補助都市計画街路工事の変更契約締結について

(事業概要)

都市計画道路原松原線は、彦根市松原町二丁目～彦根市原町(国道306号)を東西に結ぶ、約4.08kmの都市計画道路である。

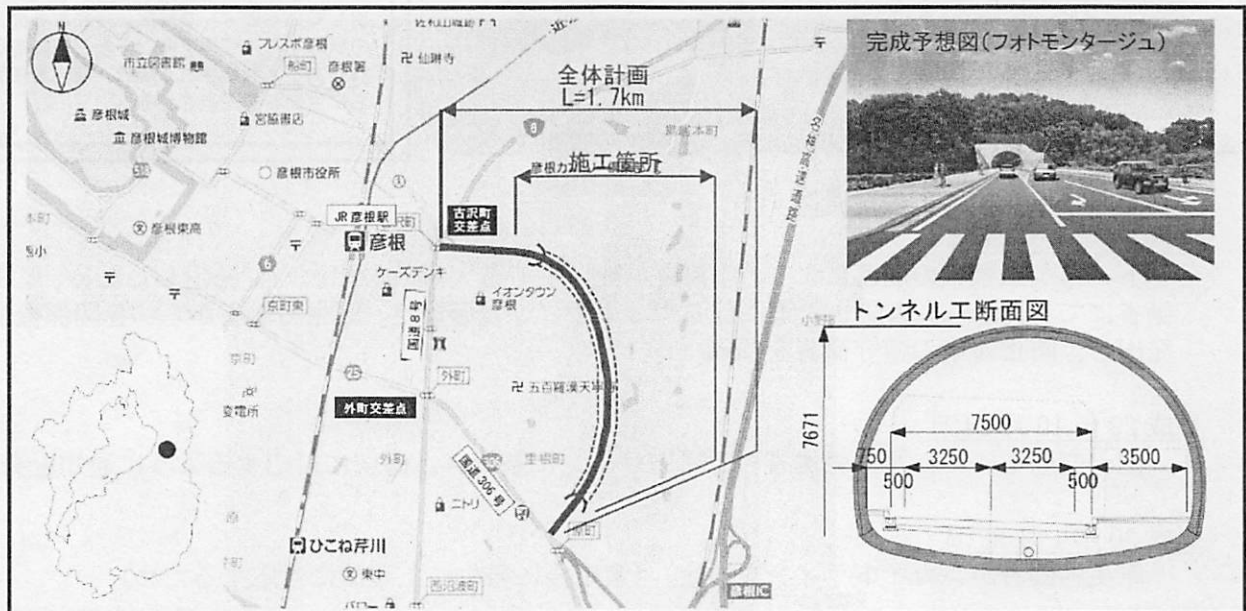
当該事業は、国道306号における、名神高速道路彦根ICから流出・合流する車両と相まって、彦根市原町地先から国道8号外町交差点に向けて北進する車両により、慢性的な渋滞を起こしている。

そこで、安全で円滑な通行を確保するため、国道8号古沢町交差点から国道306号原町交差点までの区間においてバイパス整備を行い、そのうち、本工事では、トンネル工事を実施するものである。

(工事概要)

1. 工事名 平成30年度 第1-1号 原松原線補助都市計画街路工事
2. 施工場所 彦根市原町他
3. 概要 施工延長 1,233m
トンネル工 1,135m、明かり部道路工 1式、仮設工 1式
4. 変更理由 トンネル掘削面における崩落防止対策の追加
5. 工期 平成31年3月18日～平成34年5月31日
6. 契約金額 変更前：5,174,667,100円
変更後：5,508,709,600円
7. 契約の相手方 大阪府大阪市西区西本町一丁目13-47
戸田・昭建・金子建設工事共同企業体
代表者 戸田建設株式会社大阪支店
常務執行役員支店長 三宅 正人

<位置図>



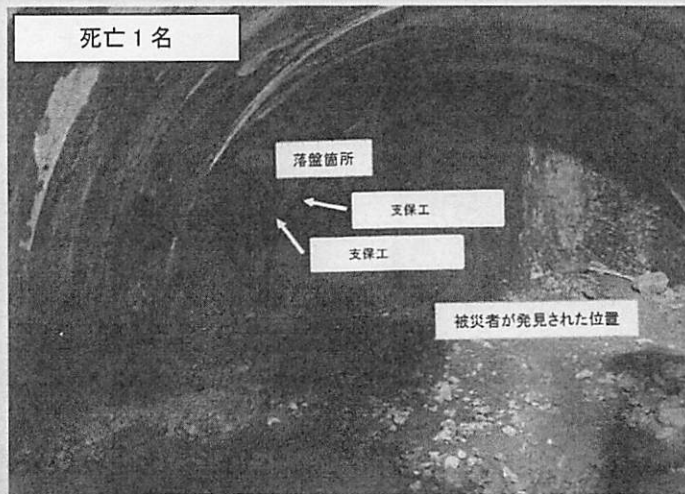
山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害 重大事故事例

死亡1名



崩落した切羽の様子

死亡1名



崩落した切羽の様子

出典:山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係るガイドライン概要
(平成28年12月26日基発1226第1号等、平成30年1月18日改正)

災害防止対策



鏡吹付け工について

掘削により露出した地山を早期にコンクリートを吹付け、覆うことにより、地山の緩みを抑える。また、コンクリートで覆われるため、地山の変形に伴い発生する亀裂や変状が視認しやすくなる。さらには、トンネル内の空気や水分に触れさせることを防ぐことができるため、地山の膨張に対しても有効である。

切羽監視責任者について

切羽監視責任者は、原則、専任とし、切羽（トンネル掘削の最先端をいい、地山が露出している部分）で作業が行われる間、切羽の状態を常時監視する。また、被災するおそれがあると判断される場合、監視責任者は直ちに労働者を退避させる。

<ガイドラインと工事の経過>

平成29年9月26日

トンネル工事中の崩落により、作業員が被災する重大事故が相次いで発生したため、厚生労働省にて「肌落ち災害防止対策に係るガイドライン」を策定。厚生労働省から、各関係機関へ発出し、防止対策の遵守徹底を依頼

平成29年10月24日

国土交通省にて、厚生労働省のガイドラインに基づき、適切に対応するように通知を发出。

平成30年1月28日

厚生労働省が、ガイドラインを改定。(策定後に発生した事故に対応するため)

平成31年3月15日

本工事契約

平成31年3月～令和元年9月

ガイドラインに基づき、現地調査や土質調査資料を基に、県と受注者が肌落ち災害防止について、協議、検討